

世界と出会う

長 松 奈美江

私は、関西学院のランパス留学基金を得て、アメリカのコネル大学とイギリスのオックスフォード大学で、2013年4月から2015年3月までの2年間を過ごしました。この2年間で、アメリカやイギリス、あるいは他の国で、たくさんの人に会いました。しかし、人だけではなく、「新しい自分」とも出会ったように思います。

「マタイによる福音書」のなかに、「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる」という言葉があります。この2年間、私はこの一節を常に心に持ちながら、過ごしてきました。日本にいと、色々な役割があります。研究だけではなく、教育の責任もあるし、大学のための様々な仕事もあり、日々働いています。一方、海外にいるこの2年の間は、私は本当に自由でした。自由であることは素敵なことです。でも一方で、エーリッヒ・フロムの『自由からの逃走』という本にも書かれているように、自由であることはとても苦しく、孤独なことでもあります。言葉の問題もあって、どうすればその社会に溶け込むことができるか、悩みました。

そこで私が思ったのは、社会についてもっと学びたいければ、自分から「求めなければならぬ」ということです。まず、自分がここで何を学びたいかを明確にすること。そして、そのために行動すること。それに、求めて行動すれば、様々な人との出会いが得られる、ということも学びました。私はアメリカにいる間に、地域の人と関わりを持ちたいと思って、メソジスト系の教会であるForest Home Chapelを訪れました。そこで、地域の人に、あたたかく受け入れてもらいました。改めて、教会が、様々な体験や気持ちを共有し、人をつなげる場であることを実感しました。ランパス宣教師のことを知っている人がいて、アメリカと日本という離れた地であっても、たしかにつながっていることを感じることができました。私が実感したのは、「求めれば与えられる」ということです。そのための機会は、アメリカでもイギリスでも、そして日本でも、無数にあるのではないかと思います。この2年間での世界との様々な出会いは、私を強くしてくれたように思います。

(社会学部准教授)